最高の経験！感動のドイツ
写真で巡る日独交流23日間

ハンブルクにあるクライミングの森では樹上に設置してあるはしごや橋、ロープウエーなど様々なアトラクションを思い切り楽しみました。

射撃クラブでエアライフルにチャレンジしました。何度も的の中心に命中させ一等賞になりました。

ハンブルクでのカヌー体験では日本人とドイツ人でそれぞれバラバラに乗って会話も楽しめました。

ベルリンの象徴であるブランデンブルグ門の前で記念撮影！今年は日本とドイツの交流がはじまって１５０年目の記念の年で、ベルリンの壁が１９８９年に崩壊し、ドイツの再統一がなされて２２年目にあたり、歴史を垣間見ることができました。

ベルリンでは、昨年宇美町にやってきたバレーボールユーゲントの方々が会いに来てくれました。指導者のホルガーさんはベルリンでの四日間ずっと付き添ってくださり、ビアフェスタやゴーカード乗り場、デパート等に連れて行ってくれました。

アウクスブルクのクー湖で水泳とビーチバレーボールを楽しみました。ドイツは夏でも肌寒いのですが、この日は暖かくとても楽しかった。

バルト海沿岸のブルー・モンキー・ビーチクラブで体験した水上スキーは最高に楽しかった。

シンデレラ城のモデルであるノイシュヴァンシュタイン城に行く夢がかないました。

英語でのディスカッションにチャレンジ
事前研修で準備はＯＫ！

ドイツのチェスユーゲントの若者と「私たちにできる社会貢献」～スポーツ・文化活動を通じて～というテーマでディスカッションを行いました。積極的にディスカッションを行えるように、六月十九日に長崎市の県営野球場で事前研修を行い、どんな質問をするのか等自分たちの意見を模造紙にまとめておきました。

ドイツの若者のほとんどが英語が話せるので英語でチャレンジしてみるとしっかり通じました。

ディスカッションの内容は、献血やユニセフ募金、震災でのボランティア活動についてなど、より深いテーマについて話し合い、多くの意見を交わすことができました。ドイツでは、東日本大震災の募金活動のために、ケーキを学校の生徒達が販売したり、学校では年一回、献血や骨髄液を寄付するなど、日本ではあまりされていないボランティア活動に取り組んでいました。

私を送り出してくれた全ての皆様に感謝！

今回の日独交流事業に送り出していただいた、福岡県及び、宇美町スポーツ少年団の皆様、本当にありがとうございました。今回の交流で、様々な文化の違いを目の当たりにして大変驚きました。

また、様々な経験を通じて視野を広げることができ、以前に比べると、多様な視点で物事を見ることができるようになりました。今回経験したことを多くの人に伝えるとともに、今後の日独交流事業を含め、県や町のスポーツ少年団の行事等が活性化するよう、微力ですが力になりたいと思います。

日独スポーツ少年団同時交流
君も高校生まで団員を続けてドイツに行こう

アウクスブルクでは、なんとサッカー日本代表で、現在ＦＣアウクスブルクに所属している細貝萌選手が、私たちに会いに来てくれました。この出来事は地元の新聞でも大きく紹介されたんですよ！

昨年宇美町スポーツ年団では、初めて「日独スポーツ少年団同時交流の受入事業」を行いました。ドイツのバレーボールユーゲントから指導者一名と団員六名が宇美町を訪れ、誠心館空手道や合気道祥雲塾、体育協会弓道部との武道交流を行ったり、宇美商業高校の華道部や茶道部、また宇美太鼓の方々と文化交流を行いました。

そして今年宇美町スポーツ少年団から団員を派遣し、相互交流が実現しました。誠心館空手道宇美支部に所属している丸山健太さん（高２）が、七月二十日から八月十一日にかけての二十三日間、ハンブルクとアウクスブルクを中心に様々な交流を行ってきました。

ドイツでの交流相手はチェス？

私が所属した九州Ｉグループは、福岡県から団員二名と長崎県から団員二名、指導者一名の計五名で構成され交流パートナーは、ハンブルクとアウクスブルクを活動拠点としている「チェス」の団体でした。

チェスがなぜスポーツ団体なの？と不思議に思われる方もいると思いますが、例えばアジア大会で囲碁や中国将棋が正式種目になっているようにチェスを含めたボードゲームもヨーロッパ諸国では立派なスポーツ種目として認知されており、スポーツユーゲントにも加盟しているのです。

ドイツスポーツユーゲントってどんな組織なの？

今回私が交流を行ったドイツでは、幼児からお年寄りまで多くの人が地域の「スポーツクラブ」に加入して幅広い年代の人がスポーツを楽しんでいます。

ドイツには日本の学校で行われている運動部活動や、企業のスポーツクラブのような仕組みは無く、地域のスポーツクラブが、人々がスポーツを楽しむ場となっています。

スポーツクラブの会員のうち二十七歳までの青少年については、同時に「ドイツスポーツユーゲント」に登録されます。

スポーツユーゲントでは、青少年団員が、これから生涯にわたってスポーツを楽しむために、その基礎となる心と身体をつくることを主眼とした指導を実施しています。そして専門的な知識と資格を持った指導者がこれに当たってます。

ドイツに派遣されるにはどうしたらいいの？

日独スポーツ少年団同時交流の派遣団員になるには、高校生以上のスポーツ少年団員登録者で、ジュニアリーダー資格を取得した後シニアリーダー資格を取得するなど必須の単位を取得することが条件です。しかし、全国でも高校生団員が少ないため、東京での事前研修を受け、英語とドイツ語の簡単な試験をパスすれば、派遣が決定します。宇美町スポーツ少年団員の皆さん是非高校生まで団員を続けて日独交流に申し込んでみませんか？感受性豊かな高校生世代で海外の文化に触れることはかけがえのない経験になりますよ。

負担金等の詳細は宇美町スポ少事務局にお尋ねください。

メインディッシュは多彩な地方プログラム

ハンブルクの幼稚園を訪問し、ダンスや折り紙で遊びました。自分たちの作った折り紙で遊んでいる姿を見ると、とても嬉しくなりました。

日本団がドイツへ出発する前日、東京のオリンピックセンターで結団式が行われ、団旗とペナントが贈られ、代表者が宣誓して決意表明を行いました。

翌日、成田空港を出発。フランクフルトに到着後、まず行われたのが二泊三日の全体前半プログラムでした。

ドイツスポーツユーゲントによって行われた導入プログラムで、歓迎行事、ドイツに関するレクチャー、見学・歓迎パーティー・フランクフルト市によるレセプション等が行われました。

全体前半プログラムが終了すると、グループに分かれて、いよいよ交流事業のメインディッシュである、十六泊十七日の地方プログラムに出発しました。

各グループがドイツの各地に移動して個別のプログラムで活動し私たち九州Ｉグループは、前半の八日間をドイツ第二の都市「ハンブルク」に、後半の八日間を、日本で言うと京都みたいな古くからある都市「アウクスブルク」に行き、ホストファミリーを中心に心温まる交流を楽しみました。